

高品質オオバ生産のための栽培方法

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

栽植密度は 20cm × 20cm の 1 本植え、または 30cm × 30cm の 2 本植えが適しています。マルチ栽培では夏季はシルバー、冬季は黒マルチの利用が有効です。また、土壌水分は pF1.7 程度の湿潤な状態に保つ管理が、収量・品質の向上につながります。

栽植密度

栽植本数が多いほど収量は高くなりますが、増収効果以上に作業性の悪化が負担になるので、栽植密度は株間 20cm × 条間 20cm の 1 本植え、または 30cm × 30cm の 2 本植えが適当です。

また、栽植間隔が広いほど草丈が高くなり、側枝の発生も多くなるなど、生育が旺盛になります。葉色、葉の形状も向上しますが、香りや食味には差がありません。



適正密度



密植



マルチ資材の種類によって異なる生育(現地ほ場)

マルチ栽培

普通作型ではシルバーマルチ、抑制電照作型では黒マルチを用いることで無マルチより収量が高くなり、品質も向上します。葉色、葉の形状には大きな差は認められません。

また通路の部分も全面マルチ等で被覆することにより、病害の発生も抑止することができます。

土壌水分

pF1.7～2.4 の範囲では、土壌が湿潤であるほど草丈が高くなり、側枝数も増加するなど生育が旺盛になり、収量も向上します。

また、土壌を湿潤な状態に維持すると、小鋸歯の発生が増加し、葉の柔らかさも適当になるなど品質が優れます。pF2.4 以上では葉が硬くなり、品質は低下します。

